

令和 7 年 度

業 務 年 報

令和 8 年 8 月

宮 崎 県 畜 産 試 験 場

＝ 目 次 ＝

I	沿革、組織機構、職員数、位置及び規模・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	令和7年度試験研究の重点目標・・・・・・・・・・・・・・・・	4
III	試験研究の実施概要・・・・・・・・・・・・・・・・	6
1	肉用牛部	
2	酪農飼料部	
(1)	乳用牛	
(2)	飼料草地	
3	家畜バイオテク部	
4	川南支場	
(1)	養豚科	
(2)	養鶏科	
(3)	環境衛生科	
5	令和7年度試験研究課題一覧	
IV	試験研究課題及び成果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	11
1	肉用牛部	
2	酪農飼料部	
3	家畜バイオテク部	
4	養豚科	
5	養鶏科	
6	環境衛生科	
7	「普及技術等」として評価された成果	
8	特許等登録状況	
V	その他の事業・・・・・・・・・・・・・・・・	17
1	粗飼料分析指導事業	
2	家畜排せつ物の適正管理と利用促進のための現地指導	
3	みやざき地頭鶏の素ひな供給事業	
VI	試験研究の発表及び広報・研修活動等・・・・・・・・・・・・・・・・	21
1	試験研究の発表	
2	広報活動	
3	講演・講義	
4	研修活動	
5	職員・研究支援員研修	
6	主要刊行物	
VII	総務・・・・・・・・・・・・・・・・	32
1	令和7年度予算	
2	令和7年度主要施設整備	
3	令和7年度主要備品整備	
4	県有財産・土地調べ	
5	県有財産・建物調べ	
6	令和7年度職員の配置	
VIII	資料・・・・・・・・・・・・・・・・	34

I 沿革、組織機構、職員数、位置及び規模

1 沿革

大正 9 年	5 月・軍馬補充部用地を借り受けて「宮崎県種畜場」（西諸県郡高原村）を創設 ・種畜場で種雄畜候補の牛・馬を導入し、育成事業を開始	昭和 5 8 年	4 月・本場を高原町へ移転し、「肉用牛部」、「酪農部」、「畜産部」を新設 8 月・肉用牛部門を肉畜支場から畜産試験場（高原町）へ移転、畜産部環境衛生科を肉畜支場へ移転
大正 1 0 年	2 月・種畜場でめん羊を導入し、繁殖事業を開始		
大正 1 1 年	4 月・宮崎県種畜場に「養鶏部」を新設	昭和 5 9 年	4 月・「副場長（総括・技術）」制を新設、畜産部を廃止し、「飼料草地部」を新設、肉畜支場を「川南支場」に改組
昭和 2 5 年	4 月・宮崎県農業試験場に「畜産部」を新設 5 月・種畜場が「宮崎県種きん場」（宮崎市島之内）として移転 4 月・「宮崎県家畜衛生試験所」（宮崎市御船町）設置	昭和 6 1 年	4 月・養鶏支場を廃し、「養鶏科」として川南支場へ移転
昭和 3 1 年	1 1 月・「川南分場」（児湯郡川南町）とし中小家畜部門が種畜場から移転独立	昭和 6 3 年	4 月・管理部を「管理課」とし、肉用牛部と酪農部を統合し「大家畜部」を設置 ・川南支場の肉豚科と育種科を統合し「養豚科」を設置
昭和 3 6 年	・種畜場で県内に分散配置されていた乳用種雄牛を集中管理	平成 2 年	4 月・大家畜部繁殖科を廃止し、「生命工学科」を設置、「優良家畜受精卵総合センター」を畜試内に設置
昭和 3 7 年	・昭和 3 7～4 0 年度の施設整備により、酪農専門の種畜場に移行	平成 6 年	4 月・大家畜部と飼料草地部を「育種部」と「飼養部」に改組
昭和 4 0 年	8 月・宮崎県総合農業試験場設置に伴い農業試験場家畜飼料研究室及び家畜衛生試験所を「畜産部」、種畜場本場を「酪農支場」、種畜場川南分場を「肉畜支場」、種きん場を「養鶏支場」として発足	平成 1 9 年	4 月・畜産試験場と優良家畜受精卵総合センターを統合再編、本場の各部の科を廃止し、「副部長」を設置（2 部 5 科を 3 部 3 副部長体制に変更）
昭和 4 2 年	8 月・酪農支場内に「酪農研修館」（営農指導課所管）を設置	平成 2 2 年	4 月・川南支場で口蹄疫が確認され、全ての豚殺処分
昭和 5 1 年	4 月・肉畜支場に「高千穂試験地」を設置	平成 3 0 年	1 1 月・川南支場から種鶏舎の一部を本場に移転整備
昭和 5 5 年	4 月・同高千穂試験地を廃止	令和 2 年	5 月・畜産試験場 1 0 0 周年
昭和 5 6 年	4 月・「宮崎県畜産試験場」を設置（総合農業試験場から畜産部門分離		

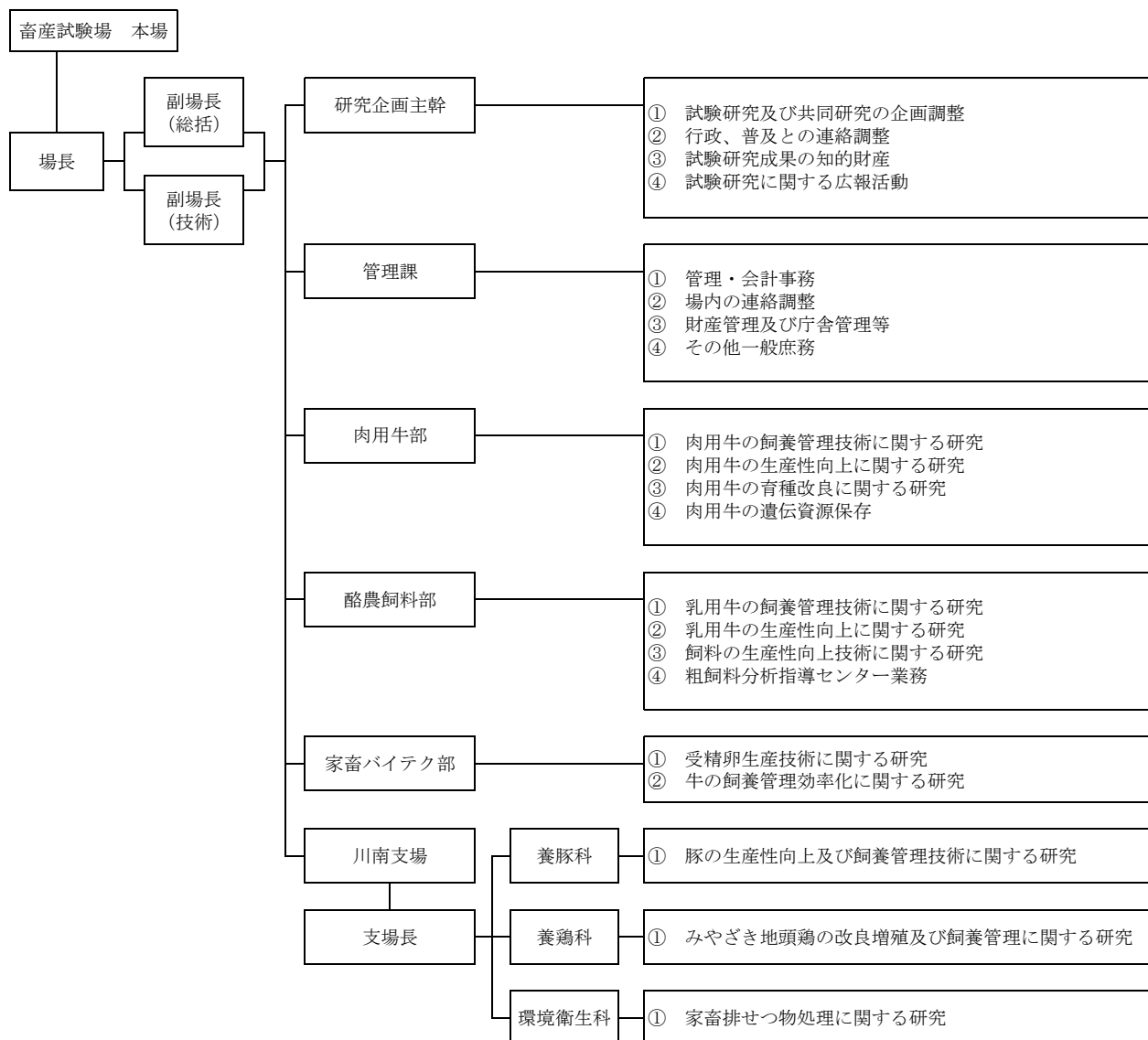


〔畜産試験場 本場〕



〔畜産試験場 川南支場〕

2 組織機構及び主な業務内容



3 職員数

(令和7年4月1日現在)

区 分	研究職員		行政職員		計		会計年度任用職員		
		うち再任用		うち再任用		うち再任用	支援員	補助員	家畜疾病・防疫対策員
場 長			1		1		28	23	0
副場長			2		2				
研究企画主幹	1				1				
管理課			3		3				
肉用牛部	6				6				
酪農飼料部	3				3				
家畜バイテック部	4				4				
本場 計	14	0	6	0	20	0	28	23	0
支場長	1				1		11	12	1
養豚科	3				3				
養鶏科	3				3				
環境衛生科	2				2				
川南支場 計	9	0	2	1	11	1	11	12	1
合 計	23	0	8	1	31	1	39	35	1

4 位置及び規模

(1) 位置

名称	所在・交通等
畜産試験場 本場	■所在地 〒889-4411 宮崎県西諸県郡高原町大字広原5066 TEL(0984)42-1122 FAX(0984)42-1707 E-mail: chikusan-shikenjo@pref.miyazaki.lg.jp HP: https://www.pref.miyazaki.lg.jp/chikusan-shikenjo/index.html ■交通 高原駅(JR吉都線)下車、徒歩15分 高速高原インター降車、車7分
畜産試験場 川南支場	■所在地 〒889-1301 宮崎県児湯県郡川南町大字川南21986 TEL(0983)27-0168 FAX(0983)27-0153 E-mail: chikushi-kawaminami@pref.miyazaki.lg.jp HP: https://www.pref.miyazaki.lg.jp/chikusan-shikenjo/index.html ■交通 川南駅(JR日豊本線)下車、車5分 高速都農インター降車、車10分

(2) 用地・施設面積

(令和7年4月1日現在)

区分	用地面積 (ha)				
		飼料畑	牧草地	山林	宅地、その他
本場	128.5	30.6	34.6	44.9	18.4
川南支場	23.2	0.0	0.0	0.0	23.2

(3) 家畜飼養頭羽数

(令和7年4月1日現在)

区分	黒毛和種		ホルスタイン種	F ₁
		うち繁殖母牛		
牛	82	49	60	0

区分	繁殖豚計	繁殖雌豚			繁殖雄豚		子豚	肥育豚計	肥育豚		
		LW	Y	D	D	Y			LWD	YD	YY
豚	30	24	3	0	3	0	58	0	0	0	0

区分	計	地頭鶏	劣勢白色 フリマズル	地劣 (F1)	九州ロート	みやざき 地頭鶏
鶏(本場)	1,735	55	16	-	1,664	-
鶏(川南支場)	1,942	454	864	43	581	0
計	3,677	509	880	43	2,245	0

Ⅱ 令和7年度 試験研究の重点目標

＜試験研究の基本方針＞

「第八次宮崎県農業・農村振興長期計画」、「みやざき畜産共創プラン」および「宮崎県農畜水産試験研究推進構想」に基づき、儲かる宮崎の畜産を先導する技術開発を推進するため、「スマート時代の農畜産業を支える技術開発」、「地域農畜産業の魅力を活かし、新たな価値を共創する技術開発」、「持続的で安全・安心な農畜産業を実現する技術開発」を大きな柱とし、生産現場で発生する技術問題の解明と多様な試験研究ニーズに対応した新技術の開発などの取組を推進する。

特に、畜産物の宮崎ブランド化の更なる推進に向けて、ゲノミック評価を活用した新たな改良手法の開発や、産肉性・経済性に優れた宮崎牛の生産技術の確立、宮崎産豚肉の新たな銘柄の確立、みやざき地頭鶏の高付加価値化に取り組む。

また、競争的資金などの外部資金の活用を図りながら、普及センターや畜産関係機関・団体、更に国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構や宮崎大学をはじめとする産学官による「オープンイノベーション」の取り組みにより、革新的技術の開発を目指す。

(1) 大家畜部門

肉用牛については、繁殖牛、子牛及び肥育牛の各ステージにおける生産性の向上や低コスト生産を実現するための飼養管理技術の開発並びに国産飼料を効率的に活用した収益性の高い宮崎牛の生産技術の確立を図る。また、DNA情報を活用した育種技術の実用化、受精卵生産に関する効率的培養技術の開発、抗酸化物質を利用した採胚成績向上手法について検討する。

乳用牛については、簡便で既存の対策と組み合わせ可能な暑熱対策技術の開発や、搾乳ロボット体系におけるトウモロコシ子実や笹サイレージを利用した発酵 TMR 調製による低コスト化を目指

す。また、牛の第一胃内発酵による温室効果ガス排出量の低減を目指す。

(2) 飼料草地部門

今までの粗飼料生産の栽培体系とは違った自給飼料栽培を検討し、高栄養かつ飼料自給率向上をめざすことにより、畜産経営の安定化を推進する。

現場ニーズの高い粗飼料の成分分析や品質評価については、地域農業改良普及センターや総合農業試験場等と連携し、情報提供をするとともに、主要な飼料作物については、本県の気候に適合した優良品種を選定し、地域農業改良普及センター等の関係機関や生産現場に役立つ情報を提供する。

また、外来害虫についても、地域農業改良普及センターや総合農業試験場等の関係機関と連携し、生産現場に役立つ情報提供を行う。

(3) 養豚部門

持続可能な肉豚生産を目指し、地元大学等と連携を図り AI や IoT 等を駆使したスマート養豚技術の開発を行うとともに、疾病が発生しやすく増体が低下しがちな離乳期の子豚において、増体向上を目指した未利用資源の飼料添加による効果試験を行う。

(4) 養鶏部門

雄系原種「地頭鶏」の維持・増殖、改良並びに雌系原種鶏「九州ロード」の能力向上に取り組む。

更に、ひなセンターへの種鶏ひな供給と種鶏飼養管理技術の向上を図り、生産農家へのみやざき地頭鶏のひなの安定供給体制の確立に努める。

また、みやざき地頭鶏の生産性向上対策としては、暑熱期の飼料添加剤の検証及び効率的な飼養管理技術の検討を行い、夏期の出荷体重の改善を目指す。さらに、幼雛期の点灯方法の違いによる発育性の比較試験を実施し、幼雛期の点灯技術を

確立することで、みやざき地頭鶏の生産性向上を図る。

（５）環境衛生部門

本県の畜産業の健全な発展を図るためには、持続的かつ資源循環型の畜産を推進する必要がある。

このため、家畜排せつ物の適正処理や利用の促進、窒素排せつ量及び温室効果ガス（GHG）の削減などの環境負荷軽減のための技術開発に取り組むこととし、硝酸性窒素等の規制が厳しくなっている養豚排水処理においては、その削減に向けた処理の高度化を図るために、生産者、民間企業、千葉県、熊本県、沖縄県および農研機構と連携して開発したスマート農業技術を、全国の生産者の実装する取り組みを進める。また、豚の飼養管理においては、低タンパク質アミノ酸バランス飼料給与による窒素排せつ量の低減を図るとともに、地域資源の活用による飼料費の削減と飼料自給率の向上を目指して開発した技術を、他の生産者に広げる取り組みを進める。

Ⅲ 試験研究の実施概要

1 肉用牛部

本県肉用牛の更なる育種改良に資するため、DNA 情報を活用した効率的で精度の高い種雄牛造成法の確立を図るとともに、子牛や肥育牛の生産性向上、低コスト生産、環境負荷低減のための飼養管理技術の開発に取り組んだ。

「肉用牛における県独自のゲノミック評価技術の構築と育種改良への活用に関する研究」では、SNP 情報を用いたゲノミック評価技術の活用に向けたリファレンス集団の構築のため、枝肉共進会等の出品牛や一般肥育牛から DNA サンプルを採取し、SNP 型判定を実施するとともに、評価対象形質の情報を収集・蓄積した。

また、「持続的な繁殖経営のための飼養管理技術の検討」では、飼料高騰に対応するため、繁殖牛への自給子実飼料等の給与試験や子牛期における増体能力を最大限に発揮させるための追加哺乳技術、月齢に応じた最適な飼料給与割合等の検討を行った。

「競争力を高める肥育牛生産体系の開発に関する研究」では、肉用牛肥育における生産性の向上のための早期出荷技術の検討に加え、脂肪の質を改善するための添加剤の検討、地球温暖化対策としての牛の消化管内発酵由来メタン削減効果のある資材の検討を行った。

更に、「宮崎牛の「おいしさ」探求試験」では、「宮崎牛」のブランド力の更なる強化を目指して、脂肪の質の改善や脂肪交雑の小ザシ化のための評価方法の検討を行った。

2 酪農飼料部

(1) 乳用牛

本県の酪農は、世界的配合飼料原料価格の高騰等の影響を受けて生産費に占める飼料費が増加しており、自給飼料増産や未利用資源の活用等による飼料費の低減が求められている。

また、異常気象により乳用牛の暑熱ストレスが乳生産性や繁殖性に与える影響が大きくなり、暑熱ストレ

ス低減への対応が求められている。さらに、温暖化の要因の一つである、反芻家畜由来のメタンガスの削減技術が求められている。

そこで「温暖化に対応した乳牛の飼養管理最適化試験」では、筐サイレージを用いた発酵 TMR の給与試験を実施した。

また、「搾乳ロボットを活用した乳用牛の暑熱ストレスと環境負荷低減技術の実証」では、反芻家畜由来のメタンガス削減を目的とした機能性飼料の給与試験を実施した。

(2) 飼料草地

温暖化などの気象リスクに加え、近年の資材高騰の影響もあり、畜産における自給飼料の重要性は高まっている。自給粗飼料はもとより、輸入穀物由来がほとんどを占めている濃厚飼料においても、その代替となり得る自給飼料の栽培、調製技術の開発は安定的な経営継続のために不可欠である。

そこで、「新たな高栄養飼料作物の生産技術の開発」では、これまでの粗飼料生産の栽培体系に加えて高栄養な自給飼料の牛への活用を見据え、飼料用大豆の栽培技術や飼料用イネ 2 回刈りを取り入れた作付け体系の検討等に取り組んだ。

現場ニーズの高い粗飼料の成分分析や品質評価については、粗飼料分指導センターにおける粗飼料分析を通して地域農業改良普及センターや総合農業試験場等と連携し畜産農家へ情報を提供するとともに、主要な飼料作物については、優良品種選定試験を通して本県の気象条件に適合した品種を選定し、地域農業改良普及センター等の関係機関を通じて畜産農家等の生産現場に役立つ情報提供を行った。

また、その他外来害虫についても、地域農業改良普及センター、総合農業試験場等と連携し、生産現場に役立つ情報提供を行った。

3 家畜バイテク部

「効率的胚生産技術共同試験」では、経膈採卵からの体外受精（OPU-IVP）による体外胚生産において、通

常 6 時間必要とされる媒精時間を 3 時間に短縮することによる影響について調査した。

「経産受卵牛の子宮内環境改善による受胎率向上試験」では、子宮内環境と受胎率の関連性調査を目的とし、経産牛および未經産牛の子宮内細菌叢を調査した。

「乳牛における簡便かつ効率的な暑熱対策技術の開発」では、牛の胃内に温度センサを留置し、夏期における冷水給与時の生体内状況等を調査した。

「黒毛和種供胚牛の採胚成績向上」では、採胚成績向上を目指し、OPU 卵子回収液への抗酸化物質添加による体外授精成績への影響を調査した。

4 川南支場

(1) 養豚科

本県の養豚は、飼養頭数が約 72.2 万頭（令和 7 年 2 月 1 日現在）で全国 3 位、養豚産出額が 580 億円（令和 6 年）で全国 3 位である。

近年の養豚情勢は、農家戸数が減少する一方で、飼養規模が拡大する傾向にあり、多産系母豚の導入による産子数の増加、飼養管理に AI や ICT を取り入れた生産性の効率化・省力化が図られつつある。また、循環型農業の推進により、資源を循環させ環境の負荷軽減を目指す養豚システムの構築が求められている。

そこで、養豚科では、飼養管理における労働力の削減、省力化を目指し、「省力的で生産性の高い養豚経営に向けた技術開発・実証試験」として、給水器に温度センサーを設置し、自動で体温を測定する装置（スマート給水器）を宮崎大学と共同で開発し、その精度向上と実装に向けた検討を行った。また、高い栄養価を持ち健康食品で幅広く利用されているユーグレナの乾燥粉末を用い、離乳子豚での発育向上のための調査を行った。

(2) 養鶏科

令和 7 年 2 月 1 日現在の畜産統計における本県の飼養羽数は、ブロイラーが全国 2 位、採卵鶏は、全国 21 位である。

宮崎ブランドの一つである「みやざき地頭鶏」の雛供給羽数（令和 7 年度）は、350,744 羽であり、前年対比 103 %と増加した。

新型コロナウイルス感染の影響が落ち着いたことにより、経済が平常活動へと動き始めたことによる需要の回復傾向が要因となっているものの、長引くウクライナ戦争や円安等の影響により飼料価格や資材高騰、生産者の高齢化による廃業等もあり、経営は厳しい状況が続いている。

このような情勢の中、みやざき地頭鶏需要拡大のためには、原種鶏の更なる能力向上が求められている。

そこで、雄系原種鶏である「^{じとっこ}地頭鶏」では、現在種鶏として稼働している S60 群の後継となる複数の後継群の改良を進めるとともに維持、増殖に取り組んだ。雌系原種鶏である「九州ロード」については、熊本県・大分県と 3 県協定試験による種卵交換を行いながら能力向上を目指した。

また、みやざき地頭鶏の生産性向上対策として、暑熱期の飼料添加剤の検証及び効率的な飼養管理技術の検討を行い、幼雛期の点灯方法の違いによる発育性の比較試験を実施した。

(3) 環境衛生科

高齢化による担い手不足が深刻化する中、畜産の成長産業化に向けては、AI、IoT 等の先端技術を活用した「スマート農業」の実現により、生産性向上や労働不足の解消を図ることが重要な課題となっている。また、「みどりの食料システム戦略」（持続的な食料システムの構築）の観点から、家畜排せつ物処理・管理や家畜の飼料給与に由来する温室効果ガス（GHG）の削減技術の開発やその普及が求められている。

そこで、「IoT と BOD バイオセンサを活用した省力・省エネ型の畜産排水処理」として、「スマート養豚排水処理システムの実証」では、普及に移した「BOD 監視システムⅡ」、「スマート汚泥管理システム」の実装を進めるために、農研機構畜産研究部門や県内外の民間企業等と連携し、スマート生産方式 SOP（スマート農業技術導入・運用手順書）作成研究に取り組んだ。

さらに、「持続可能な畜産環境対策技術の確立試験」
として、「地域資源を活用した低タンパク質アミノ酸バ
ランス改善飼料の実証」では、地域資源を配合した自
家配合飼料を給与する養豚農家において現地実証試験
を実施した。

令和 7 年度試験研究課題一覧

部門	研 究 課 題	細目課題・項目内容	研究年度
肉用牛	1 DNA解析技術による宮崎牛の価値プラスワン事業（畜産振興費）	(1)評価指標構築事業 (2)評価水準検討事業	R 3～7
	2 持続的な繁殖経営のための飼養管理技術の検討（畜産試験場費）	(1)飼料高騰に対応した繁殖牛給与体系の検討 (2)増体能力を最大限に発揮する飼養管理技術の開発	R 7～9
	3 競争力を高める肥育牛生産体系の開発に関する研究（畜産試験場費）	(1)添加剤の給与が黒毛和種肥育牛の脂肪酸組成に及ぼす影響 (2)持続的な肥育牛生産体系の検討 (3)早期出荷に適した給与体系の確立	R 7～10
	4 宮崎牛の「おいしさ」探究試験（畜産試験場費・農業総務費）	(1)宮崎牛の「おいしさ」探究試験	R 7～9
	5 肉用牛における県独自のゲノミック評価技術の構築と育種改良への活用に関する研究（畜産試験場費）	(1)フィールド情報の蓄積 (2)本県独自のゲノミック評価の検証 (3)新たなゲノミック評価項目の検討	R 5～7
酪農飼料	1 温暖化に対応した乳牛の飼養管理最適化試験（畜産試験場費）	(1)気候変動に対応した安定した生乳生産技術の開発 (2)ICTを活用した高泌乳牛生産技術の開発	R 5～7
	2 搾乳ロボットを活用した乳用牛の暑熱ストレスと環境負荷低減技術の実証（畜産試験場費）	(1)GHGと乳生産性との関連性の解明 (2)GHG低減技術の開発	R 6～8
	3 新たな高栄養飼料作物の生産技術の開発（畜産試験場費）	(1)高栄養飼料作物の栽培技術の検討 (2)高栄養飼料作物の収穫・調製法の検討	R 6～8
	4 子実用とともろこし栽培におけるドローンを用いた殺虫作業効果の検証（受託試験）	子実用トウモロコシ栽培におけるドローンを用いた殺虫作業効果の検証（機械の比較）	R 7～8
	5 飼料作物の優良品種選定試験（畜産振興費）	(1)飼料作物奨励品種選定試験 ・トウモロコシ ・イタリアンライグラス	S 57～
	6 粗飼料分析指導事業（畜産振興費）	(1)粗飼料分析、近赤外線分析に係る新規検量線の開発、指導・助言	S 60～
	7 自給粗飼料生産の機械体系化確立試験（畜産試験場費）	(1)効率的機械利用技術の検討 (2)場内向け自給飼料の質・量の確保	H 10～
家畜バイオテック	1 黒毛和種供胚牛の採胚成績向上（畜産試験場費）	(1)抗酸化物質の投与方法の検討 (2)黒毛和種繁殖牛OPU-IVPの成績向上に向けた抗酸化物質活用法の検討	R 6～8
	2 効率的胚生産技術共同試験（畜産振興費）	(1)OPU-IVPによる効率的胚生産方法の検討	R 5～7
	3 子宮内環境改善による受胎率向上試験（畜産試験場費）	(1)経産牛の全身状態及び子宮内環境調査 (2)経産受卵牛の子宮内環境改善方法の検討	R 7～9
	4 乳牛における簡便かつ効率的な暑熱対策技術の開発（農業総務費）	(1)ルーメン内留置型センサによる生体内状況調査 (2)低コストかつ効率的な暑熱対策の検討	R 7～8
養 豚	1 省力的で生産性の高い養豚経営に向けた技術開発・実証試験（畜産試験場費）	(1)効率的な養豚生産を目指した装置の開発 (2)生産性向上を目指した飼育管理 技術等の検討 (3)持続可能な豚生産技術試験	R 6～8

部門	研 究 課 題	細目課題・項目内容	研究年度
養 鶏	1 みやざき地頭鶏種鶏群素ひな供給能力向上（畜産試験場費）	(1)地頭鶏（雄系原種鶏）の改良 (2)九州ロード（雌系原種鶏）の改良 (3)孵化技術の開発	R 6 ～ 1 0
	2 みやざき地頭鶏の新たな生産技術の開発（畜産試験場費）	(1)幼雛期の新たな飼育管理技術の開発・検証 (2)暑熱期の新たな飼育管理技術の開発・検証	R 7 ～ 1 1
	3 みやざき地頭鶏総合支援事業（畜産振興費）	(1)素ひな安定供給対策	H 3 0 ～
環境衛生	1 持続可能なスマート畜産環境対策 技術の開発・実証（畜産試験場費）	(1)地域資源を活用したアミノ酸バランス改善飼料の実証	R 5 ～ 7
	2 IoTとBODバイオセンサを活用した省力・省エネ型のスマート畜産排水処理（受託試験）	(1)「スマート養豚排水処理システム」の実証	R 7 ～ 8

IV 試験研究課題および成果の概要

1 肉用牛部

試験研究課題	予算区分	試験研究期間	試験研究者 所属氏名	令和7年度試験研究成果の概要	発表誌及び年月日
1 DNA解析技術による宮崎牛の価値プラスワン事業	県単	R3～7	肉用牛部 山田翔太郎	ゲノミック評価の母集団の精度向上及び新たな評価対象形質になり得るデータ蓄積のため、現場後代検定調査牛については、種雄牛9頭の後代牛151頭のデータを収集及び蓄積した。	
2 持続的な繁殖経営のための飼養管理技術の検討	県単	R7～9	肉用牛部 井上和也 村岡信太郎 月足拓己	繁殖牛の試験では、子実用トウモロコシ給与区とトウモロコシサイレージ多給区、対照区の3区を設置し、各6頭ずつ配置し、給与試験を実施し、データの収集を行った。 子牛では、哺乳期における追加哺乳を行うため、母牛の簡単で正確な乳量推定方法の検討や追加量の判断基準の検討を行った。	
3 競争力を高める肥育牛生産体系の開発に関する研究	県単	R7～10	肉用牛部 若松花梨	脂肪の質の向上試験では、J Aみやざき本店等に聞き取り調査を行い、試験添加物を決定した。 また、牛の呼気中メタンガス削減試験では、6月に供試牛6頭を導入し、場内保留牛2頭を加えた8頭で試験を開始した。削減効果のある資材の給与は次年度となる。	
4 宮崎牛の「おいしさ」探究試験	県単	R7～9	肉用牛部 村岡信太郎	新たな枝肉画像撮影装置(MIJ15)及び食肉脂質測定装置を用い、枝肉共励会285検体、現場後代検定牛133検体、一般出荷肥育牛709検体のデータを収集及び蓄積した。 また、後代検定牛19頭については、理化学分析も行った。	
5 肉用牛における県独自のゲノミック評価技術の構築と育種改良への活用に関する研究	県単	R5～7	肉用牛部 井上和也 山田翔太郎	枝肉共進会等の出品牛565頭のDNAサンプルと評価対象となる枝肉6形質や脂肪酸推定含有割合等のデータを収集するとともに、627頭のSNP型(1塩基多型)判定を行った。 また、新たなゲノミック評価項目として画像解析によるサシの形状に関するゲノミック評価を行ったところ、粗さ指数0.776、細かさ指数で0.752の正確度であった。	

2 酪農飼料部

試験研究課題	予算区分	試験研究期間	試験研究者 所属氏名	令和7年度試験研究成果の概要	発表誌及び年月日
1 温暖化に対応した乳牛の飼養管理最適化試験	県単	R5～R7	酪農飼料部 佐藤涼花	笹サイレージを活用した発酵TMRを給与したところ、乳生産性や健康面に悪影響は認められず、問題なく給与できることが確認された。また、搾乳牛向けのICT機器を用いて育成牛の飼養管理の省力化が可能であった。	
2 搾乳ロボットを活用した乳用牛の暑熱ストレスと環境負荷低減技術の実証	県単	R6～R8	酪農飼料部 佐藤涼花	発酵MRにGHG低減が期待されるカシューナッツ殻液を添加して給与すると、添加しないTMR飼料に比べてGHG排出量が減少する傾向があった。	
3 新たな高栄養飼料作物の生産技術の開発	県単	R6～R8	酪農飼料部 立山松男	高タンパク飼料として飼料用ダイズを候補とし、栽培体系の検討と品種比較を実施した。 飼料用イネの再生草を利用した収穫技術の調査を実施し、2回刈りを行うことで高い収量性が確認できた。	
4 子実用ともろこし栽培におけるドローンを用いた殺虫作業効果の検証	受託	R7～R8	酪農飼料部 黒木邦彦	子実用トウモロコシの7葉期における防除方法の比較を行った。ブームスプレーヤーは薬剤の付着が上側に多く見られるものの、効率的な散布が可能だった。ドローンはプロペラからの風により多くの粉塵が舞い上がり、葉に多くの土が付着した。	

試験研究課題	予算 区分	試験研究期間	試験研究者 所属氏名	令和7年度試験研究成果の概要	発表誌及び年月日
5 飼料作物の優良 品種選定試験	県単	S 5 7 ～	酪農飼料部 立山松男	新たにトウモロコシで2品種、イタリアンライグ ラスで2品種が奨励品種として指定された。ま た、販売中止に伴い、トウモロコシ・ソルガム・ 栽培ヒエでそれぞれ1品種が廃止となった。	
6 粗飼料分析指導 事業	県単	S 6 0 ～	酪農飼料部 立山松男	各地域農業改良普及センターから依頼のあった 粗飼料の成分分析や評価を行い、その結果を各普 及センターが畜産経営体に対して、給与設計等の 指導に活用した。県内7普及センター依頼分は352 件で、イタリアンライグラスが全体の37%を占 め、最も多かった。	
7 自給粗飼料生産 の機械体系確立試験	県単	S 6 0 ～	酪農飼料部 立山松男	39.75haのほ場に作付けを行い、ヘイレージ78 t、トウモロコシサイレージ223 t、ソルガムサイ レージ142 t、乾草129 t、生草100tの合計672 tの 自給粗飼料を確保した。	

3 家畜バイテク部

試験研究課題	予算 区分	試験研究期間	試験研究者 所属氏名	令和7年度試験研究成果の概要	発表誌及び年月日
1 黒毛和種供胚牛 の採胚成績向上	県単	R 6 ～R 8	家畜バイテ ク部 松山来春美	と体卵巣由来の卵子を用いて卵子回収液ヘレスベ ラトロールを添加したところ、無添加および1μM添 加区と比較して10μM添加区で胚盤胞発生率が上昇 傾向を示した。	
2 子宮内環境改善 による受胎率向上試 験	県単	R 7 ～R 9	家畜バイテ ク部 高城葵	経産牛7頭、未経産牛1頭について、発情後7ま たは8日目の子宮内膜を採取し、16SrRNA菌叢解析 を実施した。	
3 効率的胚生産技 術共同試験	県単	R 5 ～R 7	家畜バイテ ク部 高城葵	OPU-IVPの体外受精工程における媒精時間の短縮 について検討した。媒精時間6時間の対照区と3 時間に短縮した試験区において、胚盤胞発生率に 有意差はなかった。	
4 乳用牛における 簡便かつ効率的な暑 熱対策技術の開発	県単	R 7 ～R 8	家畜バイテ ク部 松山来春美	暑熱環境下の乳牛に対し氷水を給与すると、血中 のd-ROMs値及びTBARS値が対照区と比較して有意に 低下し、暑熱ストレスの軽減に寄与した可能性が 示された。	

4 養豚科

試験研究課題	予算 区分	試験研究期間	試験研究者 所属氏名	令和7年度試験研究成果の概要	発表誌及び年月日
1 省力的で生産性の高い養豚経営に向けた技術開発	県単	R 6～R 8	川南支場養豚科 高橋京史 石岡史菜	口腔温度測定装置を用いて未受胎母豚を飼養したところ、発情の際に飲水行動が変化したことがわかった。 ユーグレナを0.1%、0.05%、0.01%の3水準で添加した飼料を子豚に給与した結果、対照区と比較し、いずれの水準においても試験終了時の増体率が高かった。	

5 養鶏科

試験研究課題	予算 区分	試験研究期間	試験研究者 所属氏名	令和7年度試験研究成果の概要	発表誌及び年月日
1 みやざき地頭鶏種鶏群素ひな供給能力向上	県単	R 6～R 10	川南支場養鶏科 太田錬 垣内佳介	地頭鶏については、令和6年10月発生群は、令和6年1月発生群と比較すると、「S60」「H15」「M28」それぞれ雌雄共に体重が増加した。また、産卵率についても3系統共に上昇した。新系統「R3」は、雄の体重は「S60」に次ぐ成績であり、雌は体重及び産卵率共に「S60」よりも高い成績となった。50%産卵率到達日齢が4日早まり、卵重53g到達日齢は5日遅延した。昨年度試験同様、貯卵期間ごとで発生タイミングが異なり、貯卵期間が短い新鮮な種卵の発生タイミングが早いことがわかった。	
2 みやざき地頭鶏の新たな生産技術の開発	県単	R 7～R 11	川南支場養鶏科 垣内佳介 太田錬	4週齢まで間欠点灯プログラムを実施した対照区の出荷体重と比べ出荷日齢まで間欠点灯プログラムを実施した試験区の出荷体重が上回った。試験区のうち、中期（雄12週齢、雌15週齢）までトレハロースを与えた試験区の出荷体重が慣行飼料のみを与えた対照区の出荷体重を雄雌共に上回った。	宮崎県畜産試験場研究報告第36号, 55-58, Dec. 2025 宮崎県畜産試験場研究報告第36号, 51-54, Dec. 2025

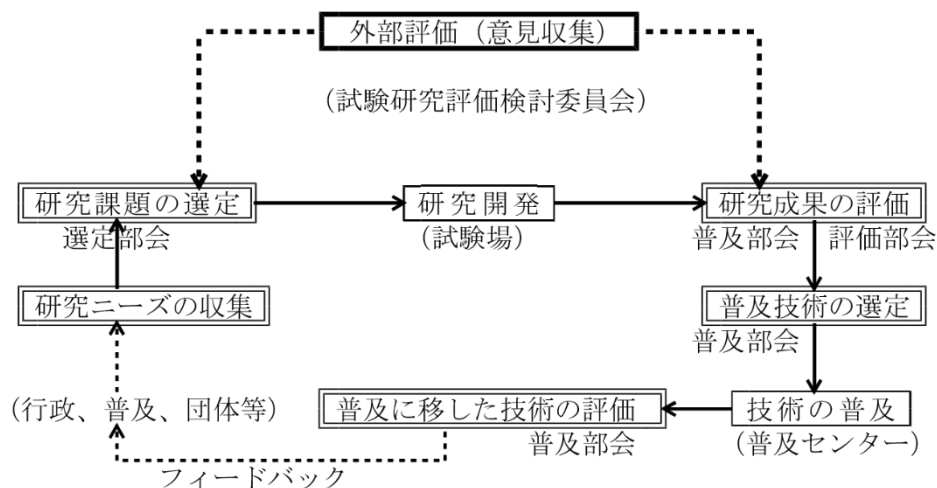
6 環境衛生科

試験研究課題	予算 区分	試験研究期間	試験研究者 所属氏名	令和7年度試験研究成果の概要	発表誌及び年月日
1 持続可能なスマート畜産環境対策技術の開発実証	県単	R 5～R 7	川南支場環境衛生科 三角久志 古賀拓音	本県産の米粉や菓子屑等の地域資源を活用した配合飼料を給与する養豚農家において、慣行飼料給与と低タンパク質アミノ酸バランス改善飼料給与を比較する現地実証試験を行った。 その結果、枝肉出荷成績、枝肉販売額および肉質において、給与飼料の影響は認められなかった。また、低タンパク飼料の給与により、窒素排泄量の削減効果が期待できる。	宮崎県畜産試験場研究報告第36号, 59-72, Dec. 2025 日本養豚学会学会誌第62巻第4号, 107, Dec. 2025
2 IoTとBODバイオセンサを活用した省力・省エネ型のスマート畜産排水処理	受託	R 7～R 8	川南支場環境衛生科 古賀拓音 三角久志	都城市内の養豚排水処理施設（実証施設）において、月2回の頻度で実証農場の原水、曝気槽水および処理水の水質分析を行うとともに、既設システムの運転管理にかかる情報を収集した。また、低コストな「IoTリモートモニタリング機器」を設置し、維持管理にかかる情報収集を行った。さらに、「BOD監視システム」、「スマート汚泥管理システム」および「IoTリモートモニタリング機器」を設置した場合の、費用対効果分析と労働生産性の分析を行い、母豚500頭規模の養豚一貫経営で年1,820,000円の収益の増加が図られ、労働生産性も6.7%向上する有益な結果が得られた。	

7 「普及技術等」として評価された成果

農政水産部技術調整会議普及技術決定部会において、農漁業者に普及すべき技術または普及・指導機関等での活用が見込まれる技術（以下「普及技術等」）として決定（評価）されたもの。

（技術調整のしくみ）



※ で囲んだ枠内を技術調整会議で実施する。

（１）令和７年度研究成果一覧（普及技術決定部会大家畜）

整理番号	普及部会	課 題 名	主査部	分類
1	大家畜	発酵TMR を活用した子牛育成技術の開発	肉用牛部	研究成果
2		未利用資源を含む発酵TMR 給与が繁殖牛に及ぼす影響	肉用牛部	研究成果
3		ICT 機器を用いた子牛発育推定システムの開発	肉用牛部	研究成果
4		出荷月齢早期化に向けた肥育前期給与体系の開発とコスト削減効果の検証	肉用牛部	研究成果
5		周年放牧による肥育牛の生産性と牛肉成分の解明	肉用牛部	研究成果
6		脂肪酸カルシウムの長期給与が肉用牛の飼養成績および消化管からのメタン発生量に及ぼす影響	肉用牛部	研究成果
7		宮崎牛のおいしさの科学的な解明に向けた官能評価	肉用牛部	研究成果
8		トウモロコシ子実の保存、飼料調製技術の評価	酪農飼料部	研究成果
9		泌乳中後期搾乳牛におけるトウモロコシ子実サイレージの給与効果	酪農飼料部	研究成果

整理 番号	普及部会		課 題 名	主査部	分類
10	大 家 畜	10	焼酎粕発酵飼料の添加物代替によるコスト削減	家畜 バイテク部	研究成果
11		11	オルニチンを含む焼酎粕発酵飼料を用いて調製したTMR 給与による黒毛和種繁殖牛の肝機能改善	家畜 バイテク部	研究成果
12		12	黒毛和種の母娘間におけるAFC 及び血中AMH 値の関連性	家畜 バイテク部	研究成果
13	中 小 家 畜	1	口腔温度測定装置による発情検知応用への可能性	川南支場 養豚科	研究成果
14		2	実証農場における乾燥キウイ給与豚の発育性及び肉質の影響	川南支場 養豚科	普及技術
15		3	トレハロース給与によるみやざき地頭鶏の夏期出荷体重の改善効果	川南支場 養鶏科	研究成果
16		4	みやざき地頭鶏における幼雛期の点灯法による発育改善	川南支場 養鶏科	研究成果

普及技術 1

研究成果 15

8 特許等登録状況

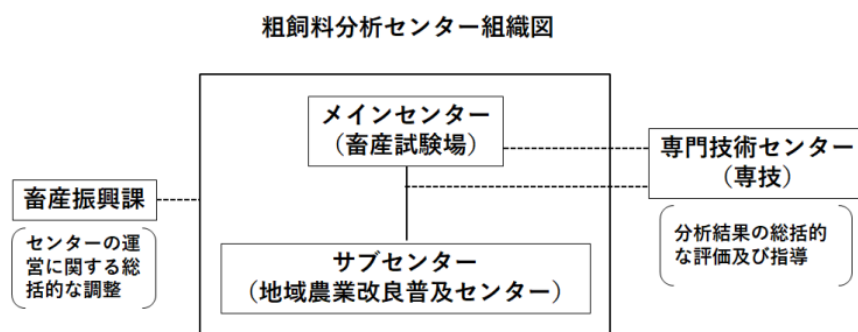
区 分	出願日	登録日	状 況	出 願 名	登録状況	部科名
特許権	2006/03/31	2009/08/28	権利放棄	培養容器及び培養装置 (特許第4362633号)	権利消滅日 2017/08/28	家畜 バイオテク部
特許権	2008/03/31	2011/03/11	権利放棄	ウシ個体における枝肉重量を評価する 遺伝子マーカー及びそれを用いた枝肉 重量評価方法 (特許第4696195号)	権利消滅日 2021/03/11	肉用牛部
特許権	2010/12/20	—	審査放置	牛の発情管理装置		家畜 バイオテク部
意匠権	2011/06/21	2012/03/23	権利継続	温湿度計 (暑熱ストレス指標計及びそれに係る ノウハウ) (意匠登録第1438892号)		家畜 バイオテク部
特許権	2012/07/02	—	審査放置	子牛用の不快環境指数計		家畜 バイオテク部
特許権	2012/07/02	2017/05/26	権利放棄	家畜体の環境緩和装置 (特許第6145754号)	権利消滅日 2020/05/26	家畜 バイオテク部
著作権	2012/12/10	2012/12/25	権利継続	牛の繁殖管理システム		家畜 バイオテク部
実用新案権	2014/03/27	2014/05/14	権利消滅	脂肪蓄積量測定器 (実用新案登録第3191101号)	権利消滅日 2024/03/27	家畜 バイオテク部
特許権	2020/02/06	2023/12/14	権利継続	G A B A及びオルニチンを高含有する 飼料の製造方法 (特許第7403096号)		家畜 バイオテク部
特許権	2021/03/02	2024/10/25	権利継続	動物用検温装置およびこれを用いた体 調管理システム (特許第7577261号)		養豚科

V その他の事業

1 粗飼料分析指導事業（県単，S 60～，酪農飼料部）

当事業は、畜産試験場及び支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）で構成する宮崎県粗飼料分析指導センターにより実施し、本県の畜産農家における粗飼料の効率的な利用技術の普及を行うため、その成分含量を的確に分析し、畜産農家に対して、適切な指導を実施する中心的な機関として設置されている。

（１）粗飼料分析指導の流れ



（２）令和７年度実績

栄養成分分析の内訳は、一般依頼が 67 点（前年度対比 143%）、普及センターが普及指導の一環として行うプロジェクト分析が 285 点（同 92%）であった。 昨年同様、一般分析よりプロジェクト分析件数が多い結果となった(表 1)。

地域別では、栄養成分の分析依頼点数は、西諸県地域が 92 点（前年度対比 110.8%）と最も多く、次いで児湯地域が 71 点（同 67%）であった。以下、中部地域が 63 点（同 161.5%）、北諸県地域が 63 点（同 225%）、南那珂地域が 32 点（同 58.2%）、東臼杵南部地域が 28 点（同 116.7%）、西臼杵地域が 3 点（同 15%）の順であった。

草種別では、前年度同様イタリアンライグラスが 130 点（前年度対比 93.5%）と最も多く、次いで飼料用イネ 69 点（同 98.6%）、ソルガム 29 点（同 126.1%）、飼料用トウモロコシ 26 点（同 130%）の順となった（表 2）。

表 1 分析項目別点数

(単位：件)

普及センター	一般分析(注1)	プロジェクト分析(注2)	合計
中部	0	63	63
南那珂	0	32	32
北諸県	0	63	63
西諸県	31	61	92
児湯	33	38	71
東臼杵北部	0	0	0
東臼杵南部	3	25	28
西臼杵	0	3	3
普及セ計	67	285	352
普及セ計(前年)	47	311	358
(前年対比%)	(143)	(92)	(98)
畜試(注3)		74	74
合計	67	359	426
合計(前年)	47	374	421
(前年対比%)	(143)	(96)	(101)

注1. 一般依頼は農業者や農業団体からの依頼

注2. プロジェクトは普及センターが普及指導の一環として行う分析

注3. 畜産試験場が試験研究で行った分析

表 2 草種別分析点数

普及センター	イタリアンライグラス				トウモロコシ				ソルガム				飼料用イネ			
	生草	サイレージ	乾草	合計	生草	サイレージ	乾草	合計	生草	サイレージ	乾草	合計	生草	サイレージ	乾草	合計
中部	11	17	-	28	-	1	1	4	1	-	-	5	2	14	-	16
南那珂	2	1	-	3	-	-	0	2	-	-	2	9	7	-	-	16
北諸県	6	16	2	24	5	3	8	-	5	-	5	4	5	-	-	9
西諸県	25	4	5	34	10	5	15	4	2	-	6	-	4	3	7	7
児湯	2	14	13	29	-	2	2	4	5	1	10	-	7	2	-	9
東臼杵北部	-	-	-	0	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	-	0
東臼杵南部	8	4	-	12	-	-	0	-	-	-	0	3	8	-	-	11
西臼杵	-	-	-	0	-	-	0	-	-	1	1	-	1	-	-	1
小計	54	56	20	130	15	11	26	14	13	2	29	18	46	5	-	69
畜試	21	-	-	21	10	-	10	-	-	-	0	9	-	-	-	9
合計	75	56	20	151	25	11	36	14	13	2	29	27	46	5	-	78

普及センター	稲ワラ				麦類				雑穀型牧草				その他			
	生草	サイレージ	乾草	合計	生草	サイレージ	乾草	合計	生草	サイレージ	乾草	合計	生草	サイレージ	乾草	その他
中部	-	1	-	1	1	-	-	1	1	2	-	3	4	4	-	-
南那珂	1	-	-	1	8	-	-	8	-	-	-	0	-	2	-	-
北諸県	-	3	2	5	-	1	-	1	-	8	-	8	-	1	-	2
西諸県	-	1	3	4	7	-	5	12	-	-	-	0	-	10	3	1
児湯	-	-	-	0	3	3	4	10	-	4	-	4	1	4	2	-
東臼杵北部	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	-
東臼杵南部	-	-	2	2	-	-	1	1	-	-	-	0	1	-	1	-
西臼杵	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	1	-	-	-
小計	1	5	7	13	19	4	10	33	1	14	0	15	7	21	6	3
畜試	-	-	-	-	-	-	-	0	5	-	-	5	29	-	-	-
合計	1	5	7	13	19	4	10	33	6	14	0	20	36	21	6	3

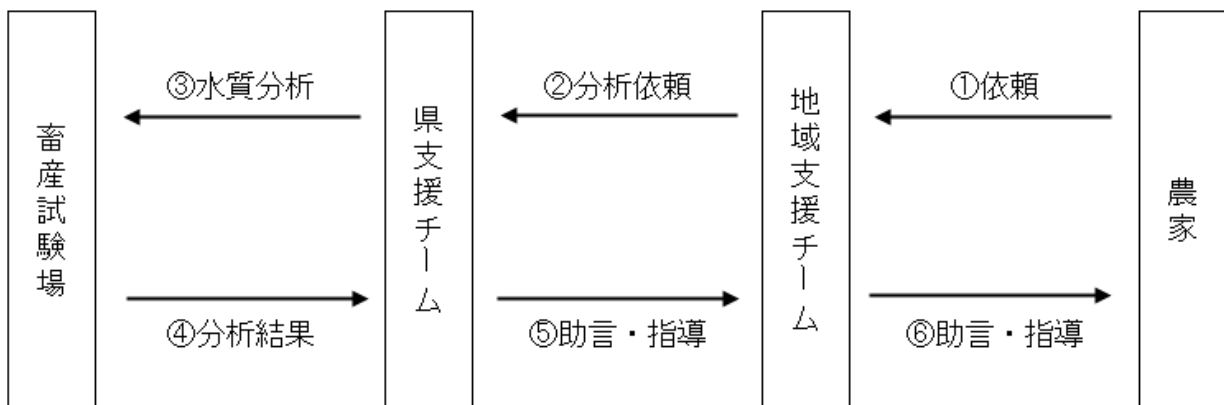
2 家畜排せつ物の適正管理と利用のための現地指導

(県単，H21～，環境衛生科)

家畜排せつ物適正管理と利用を推進するため、(公社)宮崎県畜産協会、西臼杵を除く各地域の農林振興局(農業改良普及センター)、畜産試験場、畜産振興課で構成されている「宮崎県畜産経営環境保全技術支援チーム」により、畜産環境対策の現地指導を行った。

また、地域における畜産臭気低減対策の一助とするため、臭気測定装置(商品名：畜環式ニオイセンサ)を貸し出し、臭気対策に必要な助言等を行うとともに、都城市内の養豚農場において、農場の「臭気マップ」作成を支援し、農場臭気の見える化を行い、効果的な臭気対策の実施につなげた。

(1) 家畜排せつ物の適正管理と利用促進のための現地指導等の流れ



(2) 令和7年度実績

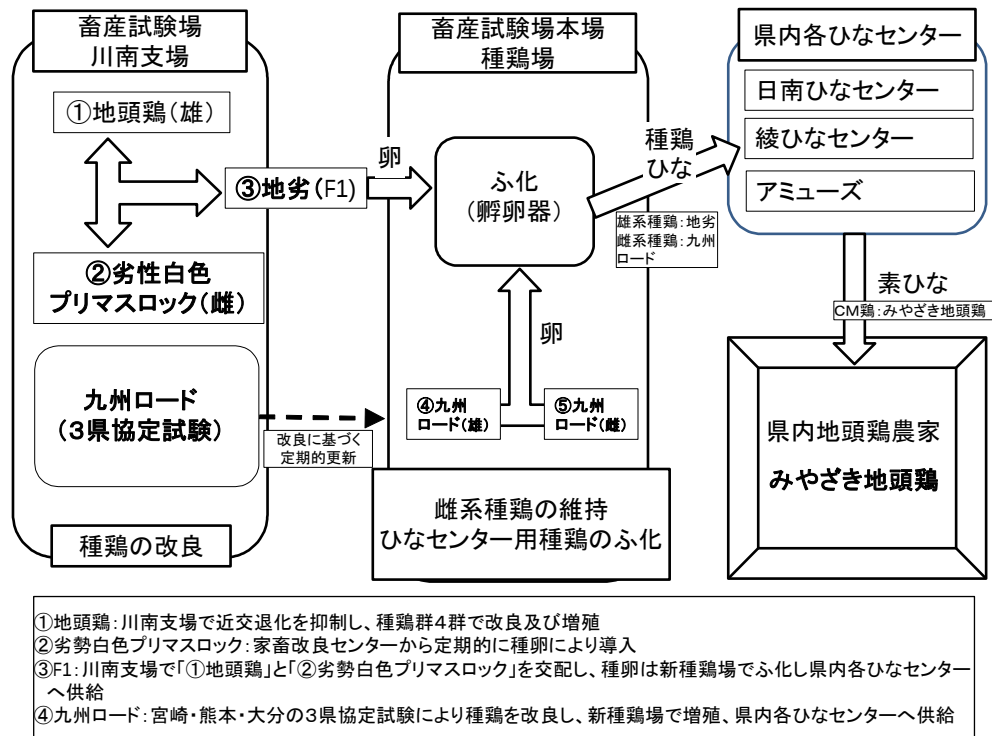
ア 臭気測定件数(臭気測定装置貸し出し件数)

区 分	中 部	南那珂	北諸県	西諸県	児 湯	東臼杵	計
臭気測定	3	—	—	—	2	—	5

3 みやざき地頭鶏の素ひな供給事業（県単，：R1～，養鶏科）

県内3ヶ所にあるみやざき地頭鶏のひなセンターに畜産試験場から種鶏ひなを供給することにより、各ひなセンターからみやざき地頭鶏生産農家への安定的な素ひな（CM鶏）の供給を図る。

（1）素ひなの供給体制



（2）令和7年度種鶏素ひな供給羽数（羽）

ひなセンター名	九州ロード（雌）	地劣（雄）
アミューズ	4,550	300
地頭鶏ランド日南	900	90
地頭鶏ランド日南綾農場	2,300	230
合 計	7,750	620

VI 試験研究の発表及び広報・研修活動等

1 試験研究の発表

発表会等	発表課題	発表年月	発表誌(機関)	発表者
第123回 日本養豚学会	地域資源を活用したアミノ酸バランス改善飼料の給与が肥育豚生産に及ぼす影響 (第2報)	R7.9	日本養豚学会誌 第62巻 第4号	川南支場 環境衛生科 専任主幹 三角 久志
令和7年度 畜産技術研究発表会	宮崎牛のおいしさの新たな評価指標の検討	R7.11	畜産技術研究発表会 講演要旨集	肉用牛部 主任研究員 村岡 信太郎
	試験場における牛のゲノミック評価			肉用牛部 主任技師 山田 翔太郎
	本県における子実用トウモロコシの活用			酪農飼料部 副部長 黒木 邦彦
	機能性成分を含む焼酎粕発酵TMRの品質評価と繁殖雌牛への給与			家畜バイテク部 技師 松山 来春美
	養豚におけるスマート技術 (第2報)			川南支場養豚科 技師 石岡 史菜
	トレハロース給与によるみやざき地頭鶏の夏期出荷体重改善の検討			川南支場養鶏科 技師 垣内 佳介
	「BOD監視システム」と「汚泥管理システム」によるスマート養豚排水処理			川南支場 環境衛生科 技師 古賀 拓音
宮崎北高校研究発表交流会	機能性成分を含む焼酎粕発酵TMRの品質評価と繁殖雌牛への給与	R7.12	総合農業試験場 宮崎北高校	家畜バイテク部 技師 松山 来春美
	畜産試験場養鶏科の取組			川南支場養鶏科 技師 太田 錬
宮崎県工業技術センター・食品開発センター 研究成果発表会	機能性成分を含む焼酎粕発酵TMRの品質評価と繁殖雌牛への給与	R8.2	宮崎県工業技術センター・食品開発センター	家畜バイテク部 技師 松山 来春美
令和7年度 新稲作研究会成績検討会	子実用トウモロコシ栽培におけるドローンを用いた殺虫作業効果の検証	R8.3	新稲作研究会HP 成績検討会概要報告	酪農飼料部 副部長 黒木 邦彦

2 広報活動

発表誌等	発 表 課 題	発表年月	発 表 者
酪農宮崎 8月号 No.645号	畜産試験場のスマート農業の取り組み	R7.8	酪農飼料部 黒木 邦彦
酪農宮崎 8月号 No.645号	新燃岳噴火に伴う降灰への対策について	R7.8	酪農飼料部 佐藤 涼花
酪農宮崎 10月号 No.647号	子実用トウモロコシの生産・活用の取り組み	R7.10	酪農飼料部 黒木 邦彦
畜産技術 R8.2月号	宮崎県畜産試験場	R8.2	研究企画 廣津 美和
酪農宮崎 3月号 No.652号	自給飼料の作期分散について	R8.3	酪農飼料部 黒木 邦彦
畜産技術 R8.3月号	地域資源を活用したアミノ酸バランス改善飼料給与による肥育豚生産	R8.3	川南支場 環境衛生科 三角 久志

3 講演・講義

講演・研修会等名	演 題	主 催	日 程	講師名
児湯地区肥育牛部会 勉強会	牛肉のMUFA測定値について	児湯地区 肥育牛部会	R7.6.27	肉用牛部 村岡 信太郎
県立農業大学校 畜産学科講義	養豚の最新の試験研究と成果 豚の疾病と衛生	県立農業大学校 畜産学科	R7.7.7 R7.7.23	川南支場 養豚科 高橋 京史 家畜疾病・防疫対策員 黒木 昭浩
県立農業大学校 畜産学科講義	家畜排せつ物の適正処理と利用	県立農業大学校 畜産学科	R7.7.17 R7.7.25	川南支場 環境衛生科 三角 久志
県立農業大学校 畜産学科講義	酪農の最新の試験研究と成果	県立農業大学校 畜産学科	R7.7.22	酪農飼料部 佐藤 涼花
県立農業大学校 畜産学科講義	肉用牛の最新の試験研究と成果	県立農業大学校 畜産学科	R7.7.29	肉用牛部 月足 拓己
家畜受精卵移植講習 会	家畜体内受精卵移植	家畜防疫対策課	R7.8.1～ 9.4	家畜バイテク部 重永 あゆみ
宮崎大学農学部 畜産学特別講義Ⅱ	畜産環境保全対策 肉用牛・養豚について 食肉利用について 養鶏学について	宮崎大学農学部 畜産草地学科	R7.9.2～5	川南支場 環境衛生科 三角 久志 養鶏科 弓削耕一郎
第62回肉用牛研究会 宮崎大会	宮崎県畜産試験場における持続可能な肉用牛経営のための取り組みについて	肉用牛研究会	R7.10.10	肉用牛部 井上 和也
家畜人工授精講習会	家畜の育種	家畜防疫対策課	R7.10.28	肉用牛部 村岡 信太郎
県立農業大学校 畜産学科講義	家畜繁殖技術	県立農業大学校 畜産学科	R7.11.6	家畜バイテク部 重永 あゆみ

講演・研修会等名	演 題	主 催	日 程	講師名
県立農業大学校 畜産学科実習	家畜繁殖技術 (家畜体内受精卵採卵)	県立農業大学校 畜産学科	R7.11.17	家畜バイオ部 重永 あゆみ 松山 来春美
県立農業大学校 畜産学科 現地研修・講義	スマート農業活用	県立農業大学校 畜産学科	R7.11.18	肉用牛部 山田 翔太郎 酪農飼料部 黒木 邦彦
宮崎大学農学部 産業動物経営学講義	「肉用牛の試験研究概要」	宮崎大学農学部	R7.12.3	肉用牛部 井上 和也
宮崎大学農学部 産業動物経営学講義	酪農をめぐる情勢、試験研究の紹介	宮崎大学農学部	R7.12.10	酪農飼料部 佐藤 涼花
宮崎大学農学部 産業動物経営学講義	「養豚経営指導」と「みやざき地頭 鶏の生産」	宮崎大学農学部	R7.12.17	川南支場 環境衛生科 三角 久志
県立農業大学校 畜産学科講義	家畜の栄養と飼料	県立農業大学校 畜産学科	R8.1.9	酪農飼料部 立山 松男

4 研修活動

研修名	研修内容	研修者	期間	人数
家保職員試験場研修 (川南支場養鶏科)	養鶏全般	家保職員	R7.6.10～13(1 名) R7.7.1～2(2 名)	3名
宮崎大学農学部獣医学科 科現地研修	畜産環境の基礎と対策技術 (座学研修) 畜産環境施設見学	宮崎大学農学部獣医学科 科4年生	R7.6.18	35名
普及指導員ベースアップ 研修	繁殖母牛	普及指導員、専技	R7.6.25	5名
ツマジロクサヨトウ対策 研修	飼料の害虫対策研修	普及指導員、専技	R7.6.25	5名
家保職員研修 (ET講習 会関連)	採卵、胚の取扱、移植技術	家保職員	R7.7.3～4 R7.7.9～10	8名
家保職員試験場研修 (本場)	牛の飼養管理全般	家保職員	R7.7.14～18(3 名) R7.9.10～12(2 名)	3名
インターンシップ (獣医職、畜産職)	飼養管理全般	学生	R7.8.8(4 名) R7.8.21(2 名) R7.8.26(5 名) R7.8.29(4 名) R7.9.9(2 名)	17名
試験場研修	各部での研修	普及指導員	R7.8.11～12.15 (3 名)	3名
家保職員試験場研修 (川南支場養豚科)	養豚全般	家保職員	R7.8.26～28(2 名) R7.9.10～12(2 名)	4名
農業大学校インターン シップ	飼養管理全般	農業大学校2年生	R7.9.22～26 (4 名)	4名
試験場研修 (川南支 場)	各科での研修	普及指導員	R7.10.6～10 (3 名)	3名
試験場研修 (本場)	各部での研修	普及指導員	R7.10.8～9 (3 名)	3名
宮崎県国際農友会	畜産分野の試験研究	宮崎県国際農友会会員	R7.11.13	10名
NOSAI研修	受精卵移植技術	NOSAI獣医師	R7.12.23 R7.12.25 R8.2.8	17名
普及指導員ベースアップ 研修	牛の見方研修	普及指導員、専技	R8.3.17	9名
合 計				76名

5 職員・研究支援員研修

研修名	研修内容	研修先	研修期間	受講者
HPAI防疫研修	—	畜産試験場内	R7.4.10	川南支場養鶏科 太田 鍊 環境衛生科 古賀 拓音
収量調査研修	展示圃の収量調査方法と実技	畜産試験場内	R7.4.16	肉用牛部 若松 花梨 家畜バイテク部 柳田 海志
新規採用職員研修	前期研修	自治学院	R7.4.21～25	肉用牛部 若松 花梨 家畜バイテク部 柳田 海志 環境衛生科 古賀 拓音
DX推進リーダー育成研修	—	防災庁舎	R7.5.9	川南支場養鶏科 垣内 佳介
研究員基礎研修	試験研究の仕組み	畜産試験場内	R7.5.14	研究員13名
自治学院研修	リーダー研修	自治学院	R7.5.16	酪農飼料部 黒木 邦彦
大型特殊免許取得研修	—	農業大学校	R7.5.19～6.5	会計年度任用職員 1名
刈払機取扱作業安全衛生教育	—	宮崎トレーニングセンター キャタピラー九州宮崎 教習センター	R7.5.21 R7.6.18 R7.7.9	会計年度任用職員 本場6名、支場4名
地方審査員合同研修	—	大分県	R7.5.29～30	肉用牛部 井上 和也
みやざき地頭鶏研修会	みやざき地頭鶏試験研究について	宮崎県トラック協会	R7.5.30	川南支場養鶏科 垣内 佳介
自治学院研修	定年延長職員	自治学院	R7.5.30	環境衛生科 三角 久志
中央畜産技術研修会	新任畜産技術職員(1)(基礎)	オンライン	R7.6.3～5	肉用牛部 若松 花梨 酪農飼料部 佐藤 涼花 家畜バイテク部 柳田 海志
専門指導力向上研修	主食用水稻、WCS用稲、飼料用米等	総合農業試験場	R7.6.6	研究企画 廣津 美和 肉用牛部 若松 花梨 家畜バイテク部 柳田 海志
酪農ゲノム検査体験会	酪農におけるゲノム技術の紹介と活用	西諸県農業改良普及センター	R7.6.10	場長 水野 和幸 酪農飼料部 黒木 邦彦 家畜バイテク部 松山 来春美

5 職員・研究支援員研修

研修名	研修内容	研修先	研修期間	受講者
データサイエンス・オンライン講座	社会人のためのデータサイエンス入門	オンライン	R7.6.17～8.19	肉用牛部 山田 翔太郎
自治学院指名研修	OJTの進め方研修	自治学院	R7.6.24	肉用牛部 月足 拓己
財務会計基礎/実務研修	会計事務基礎（収入・支出）	オンライン	R7.6.24	肉用牛部 若松 花梨
普及員ベースアップ研修	繁殖母牛	畜産試験場内	R7.6.25	肉用牛部 若松 花梨 家畜バイテク部 松山来春美 柳田 海志
専門指導力向上研修	大家畜・中小家畜	総合農業試験場	R7.7.4	肉用牛部 若松 花梨 家畜バイテク部 松山来春美 柳田 海志
西諸県酪農振興連絡協議会研修会	堆肥について	西諸県農業改良普及センター	R7.7.11	酪農飼料部 佐藤 涼花
SKLVセミナー	子豚の大腸菌症について	オンライン	R7.7.15	川南支場養豚科 岡田 直子 石岡 史菜
SKLVセミナー	牛舎暑熱対策	鹿児島県曾於市	R7.7.22	家畜バイテク部 松山 来春美
自治学院研修	ナッジ理論を用いた資料作成と活用	自治学院	R7.7.23	酪農飼料部 黒木 邦彦
養鶏管理獣医師研修会	—	東京都	R7.7.24	川南支場養鶏科 弓削 耕一郎
SKLVセミナー	産業動物学術ハイブリッドセミナー養牛編	オンライン	R7.7.31	家畜バイテク部 重永 あゆみ
SKLVセミナー	スマート養豚	鹿児島県曾於市	R7.8.1	川南支場養豚科 岡田 直子
家畜受精卵移植講習会	—	畜産試験場内	R7.8.1～9.4	酪農飼料部 佐藤 涼花 家畜バイテク部 松山 来春美
ゲノム編集研修	—	総合農業試験場	R7.8.5	家畜バイテク部 重永 あゆみ 柳田 海志
家畜DNA解析技術者研修	牛のSNP情報解析に関する研修	(独)家畜改良センター	R7.8.18～22 R8.1.22	肉用牛部 井上 和也
家畜防疫演習	口蹄疫発生を想定した事前調査班研修	農業総合研修センター、川南支場内	R7.8.20	川南支場養豚科 岡田 直子 高橋 京史 石岡 史菜 養鶏科 垣内 佳介 太田 鍊

5 職員・研究支援員研修

研修名	研修内容	研修先	研修期間	受講者
新規職員研修	農政水産部 新規採用職員研修	防災庁舎	R7.8.21	肉用牛部 若松 花梨 家畜バイテク部 柳田 海志
北諸県地域みやざき地鶏頭協議会研修会	みやざき地鶏頭試験研究について	北諸県農林振興局	R7.8.22	川南支場養鶏科 垣内 佳介
新規職員研修	畜産局新規採用職員研修	宮崎県庁	R7.8.27	肉用牛部 若松 花梨
自治学院選択研修	仕事の質とスピードを高める「4つの力」向上	自治学院	R7.8.28	川南支場養鶏科 太田 鍊
メンタルヘルス研修	—	防災庁舎	R7.8.29	家畜バイテク部 高城 葵
SKLVセミナー	消毒の基本	オンライン	R7.9.9	副場長（技術） 原 好宏
種鶏孵卵衛生管理士研修会	孵卵技術・種鶏の飼養衛生管理等について	福岡県	R7.9.9～12	川南支場養鶏科 弓削 耕一郎 太田 鍊
地域指導人材育成研修	養豚における疾病管理について	オンライン	R7.9.11	川南支場養豚科 岡田 直子 石岡 史菜
自治学院選択研修	統計分析手法を活かした課題解決法	自治学院	R7.9.11	肉用牛部 山田 翔太郎
自治学院選択研修	統計分析手法を活かした課題解決法	自治学院	R7.9.12	酪農飼料部 佐藤 涼花
第一種压力容器作業主任者研修	—	大分市	R7.9.14～15	家畜バイテク部 柳田 海志
自治学院研修	プレゼンスライド作成研修	自治学院	R7.9.17	環境衛生科 古賀 拓音
自治学院研修	メンタルヘルス研修	自治学院	R7.9.24	肉用牛部 山田 翔太郎
自治学院研修	効果的な会議のための司会・運営研修	自治学院	R7.10.3	川南支場養豚科 石岡 史菜
SKLVセミナー	ささえあ製薬学術セミナー	オンライン	R7.10.7	家畜バイテク部 重永 あゆみ
令和7年度西諸県地域家畜防疫研修	防護服着脱訓練、動力噴霧器実演等	小林総合庁舎	R7.10.8	家畜バイテク部 柳田 海志
新規採用職員研修	後期Ⅰ	宮崎県消防学校	R7.10.14	家畜バイテク部 柳田 海志
新規採用職員研修	後期Ⅰ	宮崎県消防学校	R7.10.16	環境衛生科 古賀 拓音

5 職員・研究支援員研修

研修名	研修内容	研修先	研修期間	受講者
新規採用職員研修	後期Ⅰ	宮崎県消防学校	R7.10.17	肉用牛部 若松 花梨
自治学院研修	メンタルヘルス研修	自治学院	R7.10.17	肉用牛部 村岡 信太郎
家畜人工授精講習会	—	農業大学校	R7.10.22～11.26	家畜バイテク部 高城 葵
新規採用職員研修	後期Ⅱ	自治学院	R7.10.24	肉用牛部 若松 花梨 家畜バイテク部 柳田 海志 環境衛生科 古賀 拓音
環境調和型持続的肉用牛生産体制推進事業	温室効果ガス低減について	オンライン	R7.10.26	研究企画 廣津 美和 肉用牛部 若松 花梨 酪農飼料部 佐藤 涼花 家畜バイテク部 松山来春美 柳田 海志
家畜防疫対策研修会	立ち返ろう農場防疫の基本	畜産試験場内	R7.10.27	職員43名
肉用牛基礎研修会	宮崎の畜産情勢肉用牛の流通	ミヤチク都農工場	R7.10.28	肉用牛部 若松 花梨
県立試験研究機関長協議会合同研修会	知的財産の基礎知識について	木材利用技術センター	R7.10.29	場長 水野 和幸 研究企画 廣津 美和 肉用牛部 若松 花梨 酪農飼料部 黒木 邦彦 佐藤 涼花 家畜バイテク部 柳田 海志 川南支場養豚科 高橋 京史
農作業安全研修会	農作業事故の現状と農作業安全対策	畜産試験場内	R7.11.4	職員42名
自治学院研修	二年目職員研修	自治学院	R7.11.5	酪農飼料部 佐藤 涼花
中央畜産技術研修会	酪農基礎	家畜改良センター中央畜産研修施設	R7.11.10～14	酪農飼料部 佐藤 涼花
令和7年度畜産技術研修会	—	総合農業試験場	R7.11.14	川南支場養豚科 岡田 直子
肉用牛基礎研修会	県有種雄牛の造成と肉用牛の改良関係事業	農業大学校	R7.11.19	肉用牛部 若松 花梨

5 職員・研究支援員研修

研修名	研修内容	研修先	研修期間	受講者
専門知識習得研修	公募型研修資金獲得のポイント	オンライン	R7.11.19	肉用牛部 山田翔太郎
フォークリフト運転技能講習	フォークリフト免許の取得	西都自動車学校	R7.11.19～22 R7.12.2～5	川南支場養豚科 岡田 直子 石岡 史菜 川南支場養鶏科 垣内 佳介
耕畜連携研修会	—	西諸県農業改良普及センター	R7.11.28	家畜バイテク部 松山来春美 柳田 海志
自治学院指名研修	キャリアデザイン研修	自治学院	R7.11.28	川南支場養鶏科 垣内 佳介
専門知識習得研修	公募型研究資金獲得のポイント	オンライン	R7.12.2	肉用牛部 山田 翔太郎
全国肉用牛振興基金協会	肉用牛環境対応収益工場管理技術普及事業説明会	オンライン	R7.12.4	肉用牛部 大山 真二
自治学院選択研修	説明力向上研修	自治学院	R7.12.5	肉用牛部 若松 花梨
酪農セミナー	子牛の健康、暑熱対策	オンライン	R7.12.5	酪農飼料部 佐藤 涼花
畜産技術発表会	—	畜産試験場内	R7.12.8	会計年度任用職員 20名
放牧指導者等育成研修会	放牧について	オンライン	R7.12.9	酪農飼料部 佐藤 涼花
PRRS対策研修会	養豚におけるPRRS対策について	川南町役場	R7.12.12	川南支場養豚科 岡田 直子
アニマルウェルフェアシンポジウム	アニマルウェルフェアについて	宮日会館・オンライン	R7.12.12	場長 水野 和幸 研究企画 廣津 美和 酪農飼料部 黒木 邦彦 佐藤 涼花 家畜バイテク部 重永あゆみ 松山来春美 養豚科 岡田 直子 高橋 京史 石岡 史菜
SKLVセミナー	疫学調査の基礎と応用	オンライン	R7.12.15	家畜バイテク部 高城 葵

5 職員・研究支援員研修

研修名	研修内容	研修先	研修期間	受講者
みやざき農業中核人材育成体制整備事業	地域研修会（肉用牛繁殖）	J A ・ A Z M	R7.12.18	肉用牛部 村岡 信太郎 若松 花梨 酪農飼料部 佐藤 涼花 家畜バイテク部 重永 あゆみ
スノーホーン及び炭酸ガスボンベの取扱に係る研修	スノーホーン及び炭酸ガスボンベの取扱について	県庁	R7.12.24	川南支場養豚科 岡田 直子 高橋 京史 石岡 史菜
専門知識習得研修	知的財産研修	オンライン	R7.12.24	肉用牛部 山田翔太郎 養豚科 高橋 京史
車両系建設機械（整地・運搬・積込、掘削用）講習	3 t 以上の建設機械運転資格	キャタピラー九州宮崎教習センター	R8.1.5～10 R8.2.3～4	川南支場養豚科 石岡 史菜 養鶏科 弓削 耕一郎 垣内 佳介 太田 鍊
産業動物現場技術講習会	牛のハンドリング	宮崎大学住吉フィールド	R8.1.13	家畜バイテク部 松山 来春美
水産試験場研究成果発表会	—	水産会館	R8.1.16	研究企画 廣津 美和
研究員基礎研修	牛の分娩管理の基礎	畜産試験場内	R8.1.21	研究員12名 会計年度任用職員9名
NOSAI コラボ研修	堆肥について	北諸県農業改良普及センター	R8.1.22	家畜バイテク部 柳田 海志
中小家畜における衛生対策研修会	中小家畜における衛生対策について	東京都	R8.1.26	川南支場養豚科 高橋 京史
中央畜産技術研修会	畜産統計処理（基礎）	(独)家畜改良センター	R8.1.26～30	肉用牛部 山田 翔太郎 川南支場養豚科 石岡 史菜
家畜衛生伝達講習会	—	オンライン	R8.1.30	家畜バイテク部 重永 あゆみ
宮崎県工業技術センター・食品開発センター 研究成果発表会	—	宮崎県工業技術センター	R8.2.3	場長 水野 和幸 家畜バイテク部 松山 来春美
国内肥料資源の利用拡大に向けたシンポジウム	国内肥料資源の利活用について	熊本県	R8.2.4	川南支場養豚科 岡田 直子
耕畜連携推進強化研修会	—	J A ・ A Z M	R8.2.6	酪農飼料部 黒木 邦彦 家畜バイテク部 高城 葵
第54回家畜人工授精・繁殖技術発表全国大会	—	東京都	R8.2.12	家畜バイテク部 松山 来春美

5 職員・研究支援員研修

研修名	研修内容	研修先	研修期間	受講者
自主計画研修	肉用牛先進地視察研修	茨城県	R8.2.26	肉用牛部 村岡 信太郎
令和7年度繁殖技術共同試験に係る最終検討会	OPUグループ 繁殖技術グループ	(独)家畜改良センター	R8.2.26～27	家畜バイテク部 高城 葵
令和7年度総合農業試験場研究成果報告会	—	総合農業試験場	R8.2.27	場長 水野 和幸 研究企画 廣津 美和 家畜バイテク部 重永 あゆみ
普及員ベースアップ研修	牛の見方	畜産試験場内	R8.3.17	肉用牛部 井上 和也 村岡信太郎 若松 花梨 家畜バイテク部 重永あゆみ 柳田 海志 会計年度任用職員1名
研究員基礎研修	鳥獣害対策	畜産試験場内	R8.3.17	研究企画 廣津 美和 肉用牛部 大山 真二 酪農飼料部 立山 松男 佐藤 涼花 家畜バイテク部 松山来春美
産業動物学び直し事業	牛のための周産期及び繁殖管理	宮崎大学住吉フィールド	R8.3.24	酪農飼料部 佐藤 涼花
みやざき農業中核人材育成体制整備事業	肉用牛肥育	中部農業改良普及センター	R8.3.26	肉用牛部 大山 真二 若松 花梨 家畜バイテク部 重永 あゆみ

6 主要刊行物

刊行物名	発行年月	発刊部数	備 考
業務年報 (令和6年度版)	R7.9	無し	畜試HP公開
県畜産試験場研究報告 第36号	R7.12	60部	畜試HP公開

VII 総 務

1 令和7年度予算

(1) 畜産試験場費

(単位：千円)

区 分	決算額	備 考
管理費	295,327	本課執行及び他試験場分任分 3,997千円含む。
試験費	101,052	本課執行及び他試験場分任分 540千円含む。
合 計	396,379	

(2) 本庁令達予算

(単位：千円)

区 分	決算額	備 考
一般管理費	1,889	
人事管理費	76	
農業総務費	3,851	
畜産総務費	1,680	
畜産振興費	17,945	
家畜保健衛生費	120	
県有災害復旧費	0	
合 計	25,561	

2 令和7年度主要施設整備

(単位：千円)

施 設 名 (所 属)	概 要	金 額	備 考
川南支場	畜産試験場川南支場管理棟照明器具取替修繕	875	
川南支場(養 豚 科)	畜産試験場川南支場養豚科ピットクリーナー修繕	2,033	
本 場 (酪農飼料部)	酪農試験牛舎バーンクリーナーの修繕	2,090	
本 場 (酪農飼料部)	酪農育成牛舎インバーターファンの修繕	1,386	
合 計		6,384	

3 令和7年度主要備品整備

(単位：千円)

事業名・用途等	品 名 (規 格)	金 額	備 考
公用車更新	ファミリア、ハイゼットカーゴ	2,539	本場分
エアコンディショナー	PKZ-ERMP63K5	638	本場分
胃診電信システム	終端受信装置、中継装置、アンテナ受信装置、外気温センサを含む	640	本場分
TRUE-TEST 体重計	S3インジケーター、S31010N牛用	599	本場分
オープナーディスク	1R-207908	546	本場分
エアコンディショナー	PKZ-ERMP80KL5	528	支場分
エアコンディショナー	PCZ-ERMP224B5	1,447	支場分
合 計		6,937	

4 県有財産・土地調べ

区 分	令和7年3月31日現在高	令和8年3月31日現在高	増減の理由
本 場	1,292,230.56 m ²	1,292,230.56 m ²	
内、普通財産	0.00 m ²	0.00 m ²	
川南支場	231,609.48 m ²	231,609.48 m ²	
内、普通財産	28,310.00 m ²	28,310.00 m ²	
計	1,523,840.04 m ²	1,523,840.04 m ²	
	28,310.00 m ²	28,310.00 m ²	

5 県有財産・建物調べ

区 分	令和7年3月31日現在高	令和8年3月31日現在高	増減の理由
本 場	16,985.80 m ²	16,985.80 m ²	
内、普通財産	799.09 m ²	799.09 m ²	
川南支場	15,131.02 m ²	15,131.02 m ²	
内、普通財産	0.00 m ²	0.00 m ²	
計	32,116.82 m ²	32,116.82 m ²	
	799.09 m ²	799.09 m ²	

6 令和7年度職員の配置

(令和7年4月1日現在)

職 名	氏 名	事務 技術 獣医 の別	職 名	氏 名	事務 技術 獣医 の別
場 長	水野 和幸	技術	川南支場長	有馬 典男	技術
副場長（総括）	永山 博久	事務	専任主幹	高浦 秀樹	事務
副場長（技術）	原 好宏	技術	主 事	石田 果歩	事務
研究企画主幹	廣津 美和	技術	養豚科	岡田 直子	技術
管理課長	永山 博久（兼）	事務	技 師	高橋 京史	技術
主 任	黒木 まゆみ	事務	技 師	石岡 史菜	技術
主任主事	隈田原 久弥	事務	養鶏科長	弓削 耕一郎	獣医
主任主事	池田 光祐	事務	技 師	垣内 佳介	技術
肉用牛部長	大山 真二	技術	技 師	太田 錬	技術
肉用牛部副部長	井上 和也	技術	特別研究員兼環境衛生科長	三角 久志	技術
主任研究員	村岡 信太郎	技術	技 師	古賀 拓音	技術
主任技師	山田 翔太郎	技術	技術 23名 獣医 2名 事務 6名 本場 20名 支場 11名 計 31名		
技 師	月足 拓己	技術			
技 師	若松 花梨	技術			
酪農飼料部副部長	黒木 邦彦	技術			
専任副主幹	立山 松男	技術			
技 師	佐藤 涼花	技術			
家畜バイオテック部副部長	重永 あゆみ	獣医			
主任技師	高城 葵	技術			
技 師	松山 来春美	技術			
技 師	柳田 海志	技術			

(再)：再任用、(兼)：兼務

VIII 資 料

1 試験研究課題・成果数の推移

			R3	R4	R5	R6	R7
要望課題総数(次年度分)			5	16	15	18	11
当該年度実施課題数			27	22	21	24	19
構 想 重 点 目 標 別 内 訳	①スマート時代の農畜産業を支える技術開発		9	12	7	10	11
	②地域農畜産業の魅力を活かし、新たな価値を共創する技術開発		11	3	8	8	5
	③持続的で安全・安心な農畜産業を実現する技術開発		7	7	6	6	3
当該年度終了課題数			9	6	8	10	4
次年度開始新規課題数			2	4	5	7	4
次年度課題増減数			▲ 7	▲ 2	▲ 3	▲ 3	0
当該年度研究成果カード数			20	12	17	18	16
内 訳	技術・普及	普及技術	3	1	4	2	1
	技術・参考	研究成果	17	11	13	16	15
	科学・普及						
	科学・参考						
	行政・普及						
	行政・参考						

注) 令和3年度に要領改正

令和 7 年度 業務年報

編集・発行

宮崎県畜産試験場

〒889-4411

宮崎県西諸県郡高原町大字広原 5066

T E L 0 9 8 4 - 4 2 - 1 1 2 2

F A X 0 9 8 4 - 4 2 - 1 7 0 7
